

平成 27 年 3 月の解説（府県天気予報）

【3 月の天候状況】

上旬は、低気圧が短い周期で、発達しながら日本付近を通過し、全国的に天気の崩れる日が多くなりました。1 日から 2 日にかけては、低気圧が急速に発達しながら本州南岸から千島近海に進み、北日本太平洋側を中心に暴風雪となりました。また、9 日から 10 日にかけても低気圧が急速に発達しながら北海道付近に進み、北日本太平洋側を中心に大雨となり、3 月としては記録的な降水をもたらしました。旬降水量は北日本太平洋側で平年比 560%、北日本日本海側で 250% となって、いずれも 1961 年の統計開始以来 3 月上旬としては最も多くなりました。

中旬は、11 日から 12 日にかけて発達した低気圧がサハリン付近に停滞し、日本付近には強い寒気が流れ込みました。北日本を中心に暴風雪が続き、北・東日本日本海側では大雪となりました。その後は低気圧と高気圧が交互に通過しました。

下旬は、旬のはじめは高気圧に覆われ晴れたところが多くなりましたが、23 日から 24 日にかけて低気圧が北日本で発達し、冬型の気圧配置となって日本付近には強い寒気が流れ込んだため、26 日頃にかけて気温が平年を下回ったところが多くなりました。旬の後半は全国的に移動性高気圧に覆われ、晴れて気温が高くなる日が多くなりました。そのため北日本では、旬平均気温が平年差+2.6 となり、1961 年の統計開始以来 3 月下旬としては 1 位の高温となりました。

月平均気温は、北日本と東日本でかなり高くなりました。北海道と青森県の 20 地点で、3 月の月平均気温の高い方からの 1 位の値を更新しました。月降水量は、北日本でかなり多くなりました。北海道などの 6 地点で、3 月の月降水量の多い方からの 1 位の値を更新しました。また、東日本日本海側と西日本太平洋側で多くなった一方、沖縄・奄美では少なくなりました。月間日照時間は、西日本日本海側でかなり多くなり、東日本と西日本太平洋側で多くなった一方、北日本太平洋側では少なくなりました。月最深積雪は、北日本太平洋側の一部では平年を大幅に上回りましたが、そのほかの多くの地点では平年を下回りました。

【3 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値（注）より 3 ポイント高い 86% で、明後日予報は例年値より 2 ポイント高い 82% でした。各地方の適中率では、明日予報は、東北、北陸、沖縄の各地方で 5~7 ポイント高くなりました。明後日予報の適中率は、北海道、北陸、四国の各地方で 5~9 ポイント高くなりました。

明日の最高気温の予報誤差は、全国平均では例年値より 0.2 小さい 1.5 となりました。全ての地方で予報誤差が例年値以下となり、特に東海地方で 0.6 小さくなりました。最低気温の予報誤差は、全国平均では例年値より 0.2 小さい 1.4 となりました。全ての地方で予報誤差が例年値以下となりました。

（注）例年値は気象庁 H P（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【5 月の天気予報の利用にあたって】

5 月の天気の特徴の一つは、高気圧に覆われて晴れる日が多くなることですが、低気圧が発達しながら日本付近を通過して大荒れの天気となることもあります。

また、上空に寒気が流れ込むと大気の状態が不安定となり、穏やかな晴れの天気から一転して雷や突風、局地的な大雨となることもあります。屋外での活動を計画している場合は、天気予報とともに最新の気象情報や注意報、警報の発表状況にも留意し、天気の急変などに備えてください。